

沈黙の杜に

(昭和六十年寮歌)

角田勤君 作歌

佐々木徹也君 作曲

一

沈黙の杜に 春來告げる
芳香 馨し 辛夷の花よ
純白き 残雪未だ 消えやらす
永き 寒冬 偲はるる 哉
郷愁 胸に 充滿つるとも
されど 恵迪 此処に 在り

二

水恋鳥の 哀しき 聲に
我故 知らず 涙流しぬ
短き 夏と 認識りは すれども
樹々 色づきて はや 盛夏 逝きぬ
哀愁 胸に 充滿つるとも
されど 憧憬 恵迪に 在り

三

紅雲 流るる 黄昏 ときに
夕細道は 幽か 続きて
何望む なく 彷徨ひ ゆける
この 現身を 悲哀しみに けり
愁心 胸に 充滿つるとも
されど 青春 恵迪に 在り

四

雪舞ひ 踊る 白銀の 世よ
天指す 枝柯に 樹氷 咲く
数多 群なす 星座 の中に
我に 向かい て 天狼 星光る
寂寥 胸に 充滿つるとも
されど 經營 恵迪に 在り

五

弛む ことなく 唯時は 逝き
生きとし 生けるものは 去りゆく
其は 人の 世の 眞理なれども
限れる 生を 燃やし 尽さむ
追憶 胸に 充滿つるとも
されど 恵迪 永遠に 在り